

臍帯動静脈の病理

(分担研究：健康新生児の管理に関する研究)

関 修一郎*, 赤松 洋**, 南部 春生***
鳥居 昭三****, 山内 逸郎*****

要 約

57例(成熟児21例, 未熟児36例)の新生児剖検例において臍帯動静脈の病理所見を検討した。臍帯カテーテルを挿入していない症例で認められる動脈炎, 静脈炎の存在は臍そのものが新生児における細菌の侵入門戸であることを示すだろう。

臍帯動静脈いずれの閉塞, 器質化の機転も複雑である。動静脈いずれにも内腔の狭窄と血栓形成の像が混在する。

見出し語：臍帯血管, 動脈炎, 静脈炎

研究 方 法

昭和62年より63年の2年間, 研究協力者の施設で病理解剖された57例の新生児が対象である。患者の内訳は表1の如くであり成熟児では新生児仮死が, 未熟児ではRDSが最も多い。

臍帯付着部より動脈を膀胱に至るまで, 静脈を肝臓に至るまで皮膚とともに切除し10%ホルマリン固定したものを3本の血管とも短軸方向に切り出し, 4-5カ所において切片を作成しH-E染色を施した。

結 果

『動脈炎の症例(表2)』

臍帯血管カテーテルの有無に関わらず動脈炎を認めることができるが, 番号2の症例は動脈炎の所見が皮膚にまで到達していた。

『静脈炎の症例(表3)』

動脈の場合と同様にカテーテル挿入の有無に関係無く存在し, 未熟児, 成熟児のいずれにも認められる。

『内腔の狭窄と血栓形成』

動静脈のいずれにもカテーテル挿入の有無に関わらず狭窄(スパズム), 血栓形成の所見が混在する。一本の血管においても, 同様である。

考 察

臍帯動静脈の病理所見に関する報告は非常に少ない。従来, 臍は細菌の侵入門戸であるとされてきていたが, 実際その根拠には些かあいまいな面があったといえる。恐らく臍周囲炎に至るであろう前の状態が病理解剖例の中より見出されたことは意義深いものであると思われる。臍帯のケアの必要性が認識される所以である。

従来, 臍帯動脈は収縮して器質化し, 静脈は血

* 鹿児島市立病院
** 日赤医療センター
*** 聖母会天使病院

**** 北野病院
***** 国立岡山病院

栓形成後器質化していくと思われていたが、今回 どころが明らかになった。
 の検索で実際はそう単純ではなく複雑な過程をた

表1
 患者内訳

成熟児		未熟児	
新生児仮死	9	RDS	21
先天性心疾患	6	先天性心疾患	3
その他の先天異常	5	その他の先天異常	7
感染症	1	感染症	3
		新生児仮死	2
計	21例	計	36例

表2
 動脈炎の症例

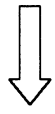
番号	在胎	出生体重	診断	IMV	感染症	臍帯動脈 カテ	臍帯静脈 カテ	死亡 日例
1	37	2100	CHD	-	-	+	-	3
2	40	3360	肺炎	-	+	-	+	16

表3
 静脈炎の症例

番号	在胎	出生体重	診断	IMV	感染症	臍帯動脈 カテ	臍帯静脈 カテ	死亡 日例
1	39	2710	仮死	-	-	-	-	2
2	41	3240	横隔膜 ヘルニア	+	-	-	-	1
3	40	2738	CHD	+	-	-	-	5
4	25	604	RDS	+	+	-	+	?
5	32	970	先天性風疹	+	+	+	-	25



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約

57例(成熟児21例,未熟児36例)の新生児剖検例において臍帯動静脈の病理所見を検討した。臍帯カテーテルを挿入していない症例で認められる動脈炎,静脈炎の存在は臍そのものが新生児における細菌の侵入門戸であることを示すだろう。

臍帯動静脈いずれの閉塞,器質化の機転も複雑である。動静脈いずれにも内腔の狭窄と血栓形成の像が混在する。